資料2

# 改定京都府環境基本計画の進捗状況評価方法について

令和８年11月６日（金）午前10～12時
令和８年度第１回京都府環境審議会
総合政策部会

# 京都府環境基本計画の全体構成　※下線部分は現行計画からの改定箇所

## 第１章　計画策定の趣旨

**■計画策定の背景**

SDGs、パリ協定、IPCC第６次報告書、第六次環境基本計画、ウェルビーイング等

**■計画の位置付け**

・目指す将来像とその実現に向けた施策の方向性を示す
・環境保全及び創造に関する総合的・長期的施策大綱
・府総合計画の環境分野の個別計画
・環境教育等促進法に基づく都道府県行動計画

**■計画期間**　おおむね**2040年目途**

## 第２章 京都府を取り巻く現状の認識

**■環境政策を取り巻く社会情勢の変化**

- 人口減少・少子高齢化社会の本格化
- デジタル技術の急速な進展
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けたライフスタイルの変化
- 国際情勢の変化が促す持続可能なエネルギーへの転換の必要性
- 四半世紀超ぶりの本格的な物価高と金利上昇

**■京都ならではの豊かな「力（ポテンシャル）」**

- 京都の歴史を繋いできた強靱さとチャレンジ精神
- 豊かな自然環境とそれに息づく多彩な伝統・文化
- 京都のまちづくりを支える力

**■京都府の環境の現状と課題**

・持続可能な社会に向けた地球温暖化対策の推進
　着実な取組の一方で温暖化は進行
　緩和策の推進に加え、適応策の強化が急務
　（パリ協定、IPCC第6次報告書、COP28
　気候変動適応法、気候変動適応計画）
・再生可能エネルギーの主力電源化に向けた取組
　再エネの導入や利用拡大を促す取組が必要
　（第7次エネルギー基本計画 、水素基本戦略）
・自然に親しみ自然とともに生きる地域づくり
　希少種保全と外来生物防除等生物多様性の保全
　（生物多様性国家戦略2023-2030）
・限りある資源を大切にする循環型社会づくり
　廃棄物3Rに加え、海岸漂着物、食品ロス等取組推進
　（G20大阪ブルー・オーシャン・ビジョン
　第五次循環型社会形成推進基本計画
　プラスチック資源循環戦略）
・府民生活の安心・安全を守る環境管理の推進
　大気や水質等環境基準の達成、継続

## 第３章　京都府の将来像（2050年頃）

京都の「豊かさ」をはぐくむ脱炭素で持続可能な社会
～将来世代のために手を携え、環境・経済・社会の好循環を創出～

## 第４章　計画の基本となる考え方

**■「ウェルビーイング＝府民が幸せを実感できる状態」の向上**

**■ 持続可能な開発目標（SDGs）の考え方の活用による環境・経済・社会の好循環の創出**
**３つの柱　①環境価値の創出　②京都ならではの豊かさ　③協働**

## 第５章　分野横断的施策の展開方向（2040年目途）

**環境** × 経済活性化 / 地域の強靱化 / 地域活性化 / 暮らしの質向上 / 人材育成

**①GXによる地域経済活性化と府民の脱炭素行動促進による府民の生活の質向上の実現**
環境配慮型ビジネスへの評価向上とGXによる産業振興、京都府独自のネットワークを活用した適応ビジネスの創出、企業と連携したSDGs経営の促進 等

**②安心・安全の実感につながる環境と調和のとれた強くしなやかな社会の実現**
気候変動適応策の推進、持続可能なグリーンインフラを活用した安心・安全な地域社会の形成、エネルギー自立分散化 等

**③京都ならではの豊かな自然資本を始めとする地域資源を活用した持続可能で魅力ある地域づくりの推進**
多様な主体の協働による環境保全活動を通じた地域活性化と「ウェルビーイング＝府民が幸せを実感できる状態」の同時実現 等

**④「ウェルビーイング＝府民が幸せを実感できる状態」の向上につながる持続可能なライフスタイルへの転換**
脱炭素行動変容と生活の質の向上、脱炭素で健康かつ快適な住まいの普及 等

**⑤持続可能な社会づくりを支える人づくりと協働の推進**
子どもたちへのきめ細かい環境教育、環境活動を通じた社会関係資本の構築、市町村支援と連携・協働の促進 等

## 第６章　環境課題の分野ごとの重点取組の推進（2040年目途）

京都府の地域特性に応じた取組

**①脱炭素社会と持続可能な経済成長の同時実現に向けた取組の加速化**
徹底した省エネの推進、再エネの主力電源化
フロン対策の推進
温室効果ガス吸収源対策・施策

**②循環型社会を目指した循環経済への移行の促進**
３Ｒ・資源循環の促進、消費者の意識啓発、
プラスチックごみの削減、食品ロスの発生抑制、
環境保全型農業の推進、海岸漂着物対策

**③安心・安全な暮らしを支える生活環境の保全と向上**
環境モニタリングと情報発信、環境アセスメント、有害化学物質等対策、 気候変動適応策、災害時の再エネ導入
災害廃棄物対策、不法投棄の未然防止

**④自然と生活・文化が共生する地域社会の継承**
多様な生態系の保全、里地・里山の再生
豊かな農林水産資源の保全・利活用
生物多様性の知見の集積と人材育成、外来生物対策

## 第７章　計画の推進

- 本計画に記載した施策展開の方向に基づき機動的に個別条例や個別計画を策定・改定
- 京都府環境審議会における検証等徹底したＰＤＣＡサイクルにより進行管理を実施。概ね5年ごとに見直し。

# ■ 評価の全体設計（前回提示した案）



## 客観的評価

### ①施策の取組状況調査による評価（第５章に対応）

計画に位置付けた取組に対応する京都府の施策の進捗度を全庁に照会し結果を評価

### ②環境データに基づく状況評価（第６章に対応）

各部会で数値目標、達成までのロードマップを定めその進捗度を評価

評価結果を点数化し、その得点率でa～dの４段階で評価

| 第５章 | | | | | 第６章 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ① | ② | ③ | ④ |
| a | a | c | d | b | b | c | a | b |

・全てaまたはb →A
・aまたはbが半数以上 かつcまたはdが1つ以上→B
・aまたはbが半数未満 かつdが半数未満 →C
・dが半数以上 →D

評価

B

## 主観的評価

### ③府民の実感を調査

幸福度・生活満足度

デジタル庁Well-Being指標（主観指標のうち幸福度・生活満足度に関する設問４問を抽出）

環境に対する実感

府民意識調査（５問）

基準年（令和８年度）から比較して、「上昇」「横ばい」「低下」で評価

| Well-Being指標 | | | | 府民意識調査 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ② | ③ | ④ | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| ↗ | → | ↘ | ↘ | ↗ | ↗ | → | ↘ | ↘ |

**幸福度・生活満足度**
**概ね低下**

**環境に対する実感**
**概ね横ばい**

**総合評価**

# ■ 審議会委員からいただいたご意見



✓第5章の評価について、何を評価して点数をつけるのかについて、実態を反映したものにしていただきたい

➡ **論点①　第5章の具体的な評価方法を整理**

✓施策の実施状況、環境データ、府民意識調査・Well-Being指標、これらをどのように統合して総合評価とするのか整理する必要がある

✓個別評価から総合評価に至るプロセスを見せて、判断根拠を分かりやすく示す必要がある

✓実際は難しいと思うが、環境の改善が府民の満足度やWell-Being向上にどうつながっているのか示せるとよいのではないか

✓評価を行うだけでなく、次年度以降の施策の見直しや強化にどう反映するのか整理する必要がある

➡ **論点②　総合評価の見せ方を整理**

# ■ 評価の全体設計（前回提示した案）



## 客観的評価

### ①施策の取組状況調査による評価（第５章に対応）

計画に位置付けた取組に対応する京都府の施策の進捗度を全庁に照会し結果を評価

### ②環境データに基づく状況評価（第６章に対応）

各部会で数値目標、達成までのロードマップを定めその進捗度を評価

評価結果を点数化し、その得点率でa～dの４段階で評価

**論点①**
**具体的な評価方法**

| 第５章 | | | | | 第６章 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ① | ② | ③ | ④ |
| a | a | c | d | b | b | | | |

・全てaまたはb　→A
・aまたはbが半数以上
　かつcまたはdが1つ以上→B
・aまたはbが半数未満
　かつdが半数未満　→C
・dが半数以上　→D

評価

B

**論点②**
**総合評価の見せ方**

**総合評価**

## 主観的評価

### ③府民の実感を調査

幸福度・生活満足度

デジタル庁Well-Being指標（主観指標のうち幸福度・生活満足度に関する設問４問を抽出）

環境に対する実感

府民意識調査（５問）

基準年（令和８年度）から比較して、「上昇」「横ばい」「低下」で評価

| Well-Being指標 | | | | 府民意識調査 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ② | ③ | ④ | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| ↗ | → | ↘ | ↘ | ↗ | ↗ | → | ↘ | ↘ |

**幸福度・生活満足度**
**概ね低下**

**環境に対する実感**
**概ね横ばい**

# ■ 論点① 客観的評価方法の整理（案）



客観的評価について、以下の流れで実施

**STEP1** **対象事業の整理**

計画第５章①～⑤の体系に沿って、府の実施事業を整理

**STEP２** **各事業の自己評価**

各事業について、所管課が実施状況や成果を踏まえ、
３段階で評価（１～３点）

**STEP３** **計画の区分ごとの集計**

第５章①～⑤ごとに、STEP２の評価を集計し、得点率を算出

**STEP４** **計画の区分ごとの評価**

STEP３で算出した得点率に基づき、第５章①～⑤それぞれの達成状況を４段階（a～d）で評価

**STEP５** **評価結果の整理** 前回審議済

第６章の評価結果とあわせ、客観的評価結果として総括

論点①

# ■ 論点①（STEP１～４）第５章の評価方法の整理（案）



**(例)第５章①GXによる地域経済活性化と府民の脱炭素行動促進による府民の生活の質向上の実現**

| STEP1 項目（計画記載事項） | 実施事業 | STEP 2 点数 | STEP 3 得点率 | STEP 4 評価 |
|---|---|---|---|---|
| (1)環境配慮型ビジネスへの評価向上とGXによる産業振興 | ①〇〇補助事業<br>②××啓発事業<br>③△△推進事業 | ①３点<br>②２点<br>③２点 | | |
| (2)京都府独自のネットワークを活用した気候変動影響への適応ビジネスやサービス等の創出・促進 | ④●●補助事業<br>⑤▽▽啓発事業 | ④３点<br>⑤３点 | | |
| (3)企業と連携したSDGs経営・ESG投資の促進 | ⑥▲▲推進事業<br>⑦◇◇啓発事業<br>⑧■■推進事業<br>⑨□□補助事業 | ⑥２点<br>⑦３点<br>⑧２点<br>⑨２点 | | |
| (4)農林水産業の推進 | ⑩◆◆補助事業<br>⑪▼▼啓発事業<br>⑫・・・推進事業 | ⑩３点<br>⑪２点<br>⑫２点 | | |

**得点率　80%**
(獲得点数÷満点×100)

**満点　36点**
(12事業×３点)

**獲得点数　29点**

**評価　a**

a　80%以上
b　60%以上80%未満
c　40%以上60%未満
d　40%未満

## ◆得点の考え方

| 点数 | 数値目標・計画がある事業 | 数値目標も計画もない事業 |
|---|---|---|
| ３点 | • 目標達成率100%以上<br>• 計画以上に取組が進み、期待以上の成果が得られた | 事業目的に照らし当初想定を上回る成果が認められた |
| ２点 | • 目標達成率80%以上100%未満<br>• 計画通りに実施し、期待する成果が得られた | 事業目的に照らし、想定した成果が認められた |
| １点 | • 目標達成率80%未満<br>• 計画どおりに実施できていない、又は期待する成果が十分に認められない | 事業目的に照らし、成果が十分に認められない |

# ■ 論点①（STEP２参考）点数化の具体的イメージ



**全庁照会を行い、事業ごとに目標等について整理した上で、担当部署において点数をつける。**
**(以下、点数化する際の具体例)**

| | 事業名 | 事業概要 | 目標・指標 | 点数の考え方 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 数値目標・計画あり | 住宅脱炭素化促進事業 | ZEH住宅を新築、購入した個人への補助事業 | 補助件数95件 | ３点<br>２点<br>１点 | • 補助件数95件以上を達成し、期待以上の成果があった<br>• 補助件数が76件以上95件未満（目標値の8割以上）であり、概ね期待する成果があった<br>• 補助件数が76件未満であり、期待する成果が十分に認められない |
| | 環境を守り育てる京都づくり推進事業 | 環境問題に対する府民の意識醸成を目的に、参加・体験型のイベントである京都環境フェスティバルを開催 | 来場者数<br>9,000名 | ３点<br>２点<br>１点 | • 来場者数が9,000名以上を達成し、期待以上の成果があった<br>• 来場者数が7,200名以上9,000名未満（目標値の8割以上）であり、概ね期待する効果があった<br>• 来場者数が7,200名未満であり、期待する成果が十分に認められない |
| | 自転車活用推進事業 | 京都の地域資源をつなぐサイクルルートの形成を促進 | 2027年度目標<br>800㎞整備<br>(2025年度末時点<br>685㎞整備) | ３点<br>２点<br>１点 | • 整備延長が685km以上となり、計画を達成又は上回る成果があった<br>• 整備延長が548km以上685km未満（計画値の8割以上）であり、概ね計画どおり進捗した<br>• 整備延長が548km未満であり、計画どおりの進捗が認められなかった |
| 数値目標・計画なし | 水素エネルギー実証事業 | 長田野工業団地における燃料電池自動車を活用した物流実証事業を実施 | 実証により、分散型エネルギーリソースとデジタル技術を組み合わせたエネルギー需要の最適化の可能性を検証 | ３点<br>２点<br>１点 | • 物流実証を実施し、水素利活用の拡大や事業化に向けた具体的な成果や方向性が得られた<br>• 物流実証を実施し、当初想定していた必要なデータや知見を取得した<br>• 物流実証が実施できなかった、又は必要なデータや知見を十分に取得できなかった |

# ■ 論点①（STEP２参考）新旧評価方法の比較



例

| 事業名 | 事業概要 |
| --- | --- |
| 水素エネルギー実証事業 | （Ｒ７実績）<br>長田野工業団地における燃料電池自動車を活用した物流実証事業を実施 |

## 旧評価

| 実施状況（○,△,×） |
| --- |
| ○ |

事業を実施しているため○

## 新評価

| 点数 | 基準 |
| --- | --- |
| ３点 | 物流実証を実施し、水素利活用の拡大や事業化に向けた具体的な成果や方向性が得られた |
| ２点 | 物流実証を実施し、当初想定していた必要なデータや知見を取得した |
| １点 | 物流実証が実施できなかった、又は必要なデータや知見を十分に取得できなかった |

| 達成状況（3,2,1） |
| --- |
| 2 |

当初想定していた必要なデータは得られたが事業化等の成果は得られなかったため**２点**

# ■ 論点① 評価結果の見せ方



## （第５章）京都府の施策がどの程度実施できたか

STEP４

| 項目 | 評価 | 評価理由 |
|---|---|---|
| ①GXによる地域経済活性化と府民の脱炭素行動促進による府民の生活の質向上の実現 | a～d | |
| ②安心・安全の実感につながる環境と調和のとれた強くしなやかな社会の実現 | | |
| ③京都ならではの豊かな自然資本を始めとする地域資源を活用した持続可能で魅力ある地域づくりの推進 | | |
| ④「ウェルビーイング＝府民が幸せを実感できる状態」の向上につながる持続可能なライフスタイルへの転換 | | |
| ⑤持続可能な社会づくりを支える人づくりと協働の推進 | | |

評価理由を整理して記載

## （第６章）環境データに基づく状況

各部会にて実施する内容

| 項目 | 評価 | 評価理由 |
|---|---|---|
| ①脱炭素社会と持続可能な経済成長の同時実現に向けた取組の加速化 | a～d | |
| ②循環型社会を目指した循環経済への移行の促進 | | |
| ③安心・安全な暮らしを支える生活環境の保全と向上 | | |
| ④自然と生活・文化が共生する地域社会の継承 | | |

各部会から評価結果を整理して記載

**第５章・第６章の評価結果を踏まえ客観的評価を総括**

STEP５

評価 **B**

**≪成果と課題≫**

- 循環型社会の形成、生物多様性保全、人づくりなどの分野では目標達成又は概ね達成した指標が多く、計画に基づく施策は概ね順調に進捗した。
- 一方、脱炭素社会の実現に向けた取組は着実に進めたものの、温室効果ガス排出量削減など一部の重要指標は目標未達となっており、今後一層の取組強化が必要である。

# ■ 論点② 総合評価の見せ方（案）

以下の流れで総合評価を実施

**STEP1** **客観的評価の整理**

- **第５章に対応する評価**
  府庁全体に照会し整理
- **第６章に対応する評価**
  ４部会からの評価結果を整理

論点①

**STEP２** **主観的評価の整理**
府民意識調査・Well-Being指標をとりまとめ

論点②

**STEP３** **総合評価として整理**
客観的評価、主観的評価の結果を踏まえ、総括として総合評価を実施

# ■ 論点② 総合評価の見せ方（案）



**総合評価**

STEP３

**全体としては概ね順調に進捗した。**
前年度と比較し、循環型社会形成や生物多様性保全等の分野では良好な進捗が見られた。特に〇〇指標・△△指標は改善が見られ、府民の自然環境に対する満足度の向上にもつながったものと考えられる。
一方、脱炭素社会の実現に向けては、指標の目標達成や脱炭素化に対する府民の実感に課題が残るものの、◇◇や××など新たな取組の展開も見られた。

**全体としての評価**

**成果**
（客観的・主観的評価）

**課題**
（客観的・主観的評価）

**総合評価の根拠**

## 客観的評価

STEP１ 論点①

**評価**
**B**

**«成果と課題»**
- 循環型社会の形成、生物多様性保全、人づくりなどの分野では目標達成又は概ね達成した指標が多く、計画に基づく施策は概ね順調に進捗した。
- 一方、脱炭素社会の実現に向けた取組は着実に進めたものの、温室効果ガス排出量削減など一部の重要指標は目標未達となっており、今後一層の取組強化が必要である。

**（第５章）京都府の施策がどの程度実施できたか**

| 項目 | 評価 | 評価理由 |
|---|---|---|
| GXによる地域経済活性化と府民の脱炭素行動促進 | a～d | |
| 安心・安全を実感できる社会の実現 | | |
| 地域資源を活用した持続可能で魅力ある地域づくり | | |
| 持続可能なライフスタイルへの転換 | | |
| 人づくりと協働の推進 | | |

**（第６章）環境データに基づく状況**

| 項目 | 評価 | 評価理由 |
|---|---|---|
| 脱炭素社会の実現 | a～d | |
| 循環型社会・循環経済への移行 | | |
| 安心・安全な暮らしを支える生活環境の保全 | | |
| 自然と生活・文化が共生する地域社会の継承 | | |

## 主観的評価

STEP２ 前回審議済

**♦ Well-Being指標**

| 質問 | 状況 |
|---|---|
| 現在、あなたはどの程度幸せですか | 6.4／10段階評価 → |
| 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか | 6.6／10段階評価 ↗ |
| 現在、あなたの町内(集落)の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか | 6.3／10段階評価 → |
| 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う | 3.2／５段階評価 ↘ |

**♦ 府民意識調査**

| 質問 | 状況 |
|---|---|
| 企業の環境に配慮した取組や経営を評価する社会に変わってきていると思う | 57% → |
| 省エネの取組や太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入が、暮らしやすさに繋がると思う | 63% ↘ |
| 持続可能で魅力ある地域づくりに向け、個人や企業、市民団体など多様な主体が環境保全活動に取り組んでいると思う | 40% → |
| 地域で節電や公共交通機関の優先利用、環境負荷の少ない商品の優先購入といった工夫な暮らし方を実践している人が増えていると思う | 31% ↘ |
| 地域で子どもたちが自然や生物多様性などの大切さについて学び、体験する機会が整っていると思う | 42% ↗ |